
血管性認知症

公益財団法人甲南会 甲南医療センター
認知症疾患医療センター
松山賢一



もの忘れおしゃべり教室Webセミナー ラインナップ

第1回 アルツハイマー型認知症

第2回 レビー小体型認知症

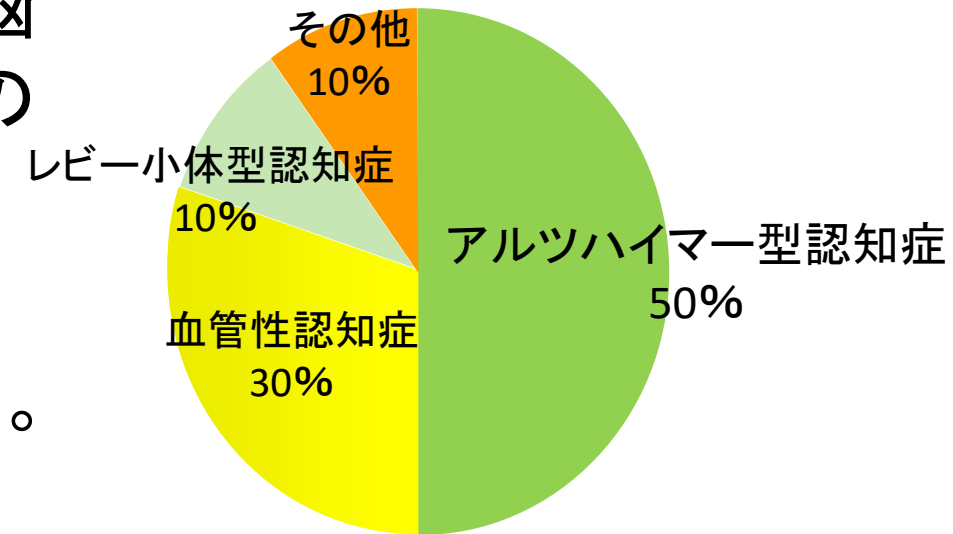
第3回 血管性認知症

第4回 その他の認知症



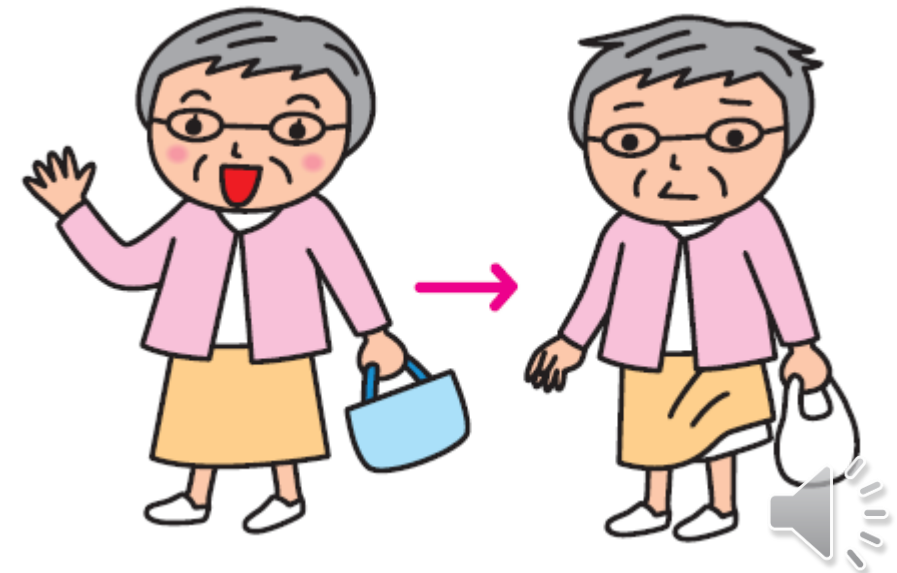
血管性認知症とは

- 血管性認知症は、脳血管障害（脳梗塞、脳出血、脳虚血など）が原因となる認知症の総称です。
- 認知症の中では、2番目に多いタイプです。
- 脳血管障害は、アルツハイマー型認知症など他の認知症に合併することも多く、認知症の25%～50%に影響していると考えられています。



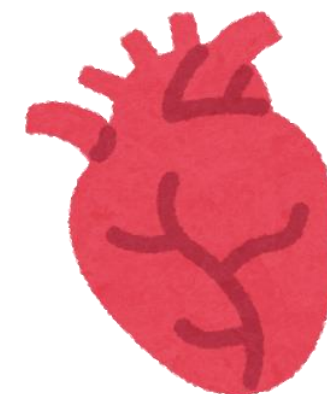
血管性認知症の症状

- 脳血管の障害部位が様々なので、血管性認知症に必ず起きる症状はありません。
- アルツハイマー型認知症に比べて記憶障害は軽度で、実行機能の障害、思考スピードの低下、注意の障害などが目立つことが多いです。
- 歩行障害、運動麻痺、感覚障害、頻尿などを生じることがあります。
- 精神的には、抑うつ、意欲低下、易怒性などを生じることが多いです。

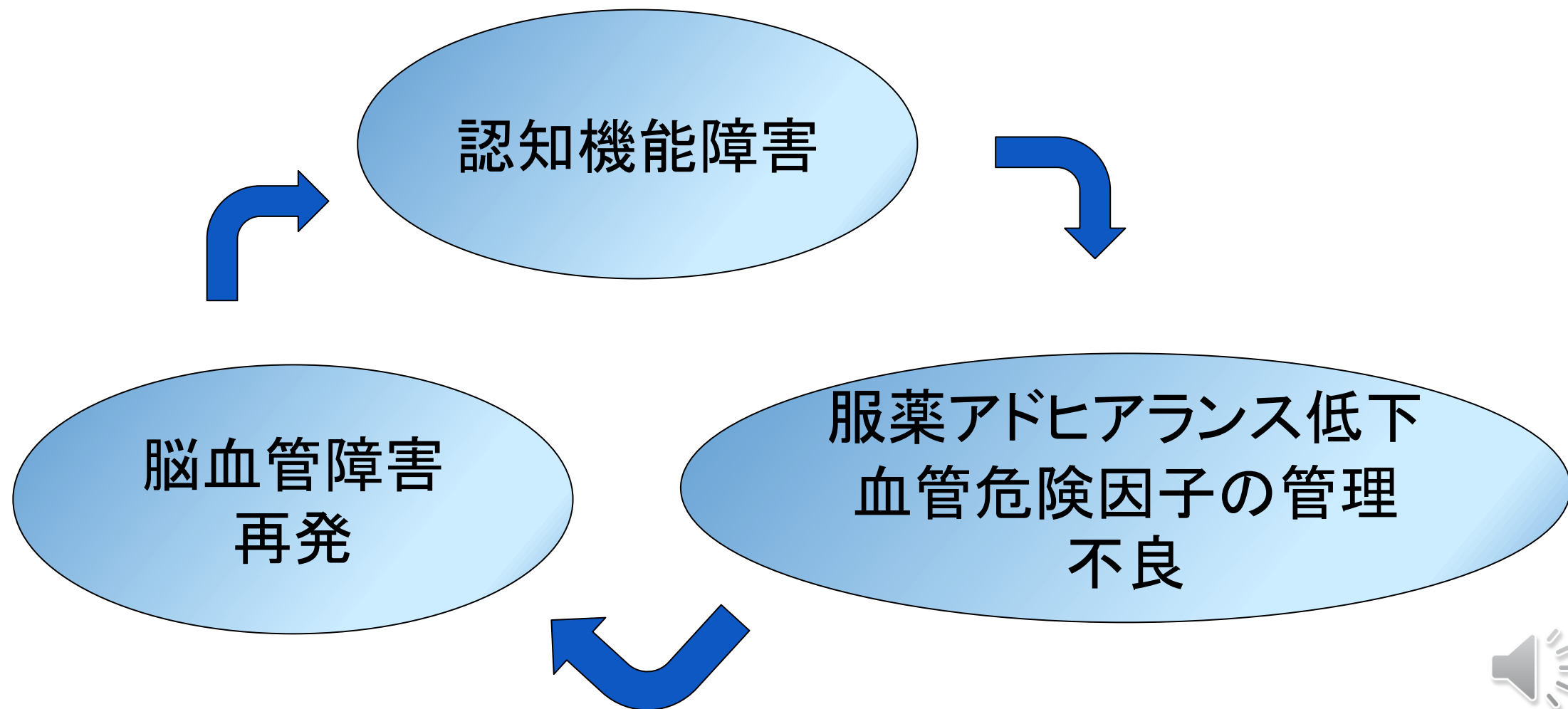


血管性認知症の危険因子

- 高齢
- 高血圧
- 糖尿病
- 高コレステロール血症
- 運動不足
- 肥満
- 喫煙
- 冠動脈疾患
- 心房細動
- など



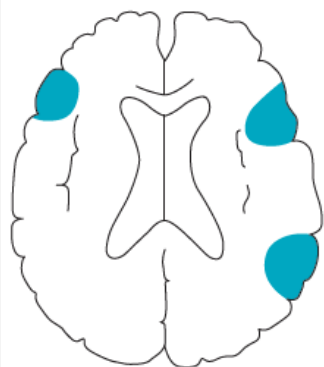
血管性認知症の負の連鎖



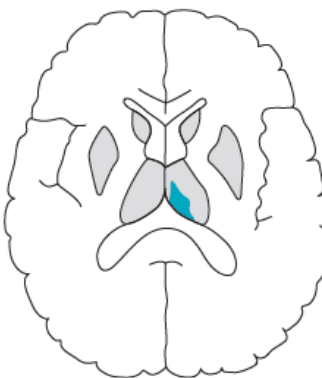
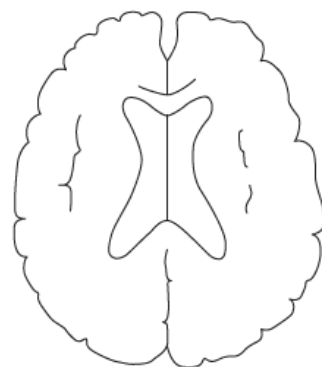
血管性認知症の分類

小血管病性がもっとも多い。

多発梗塞性認知症



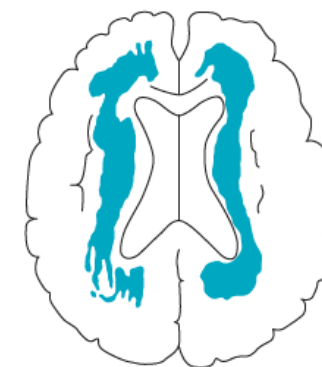
strategic single infarct dementia



多発ラクナ梗塞性認知症

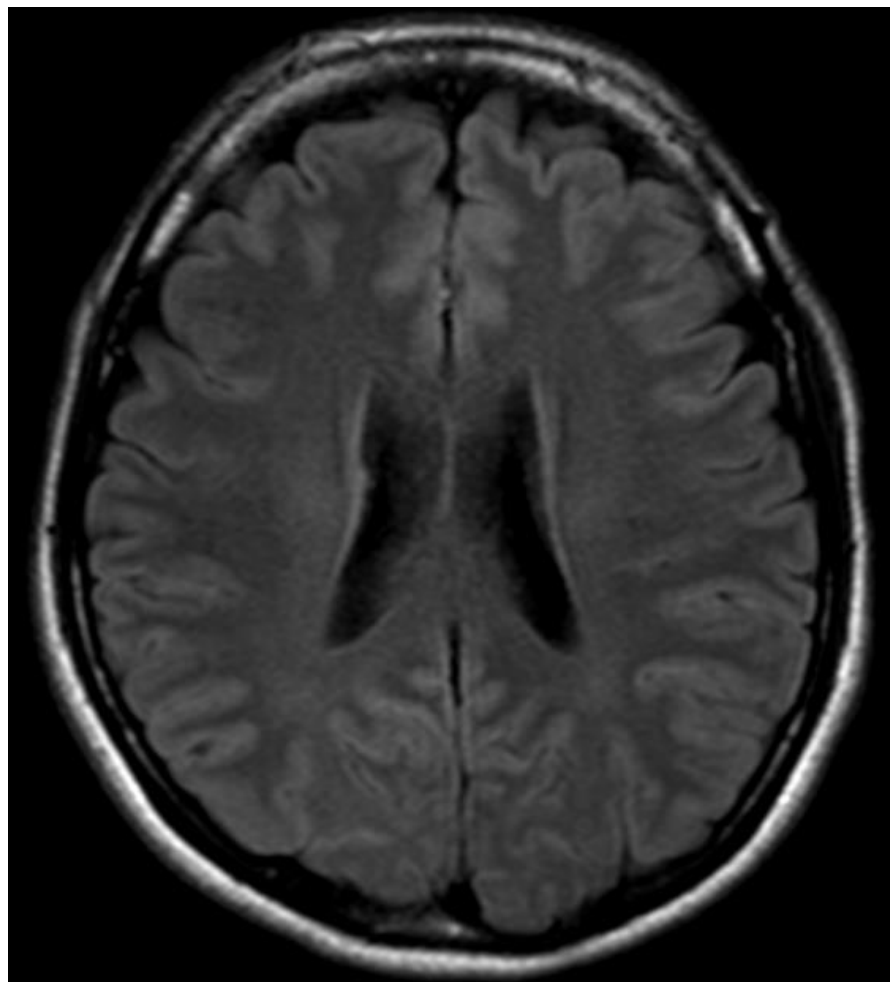


Binswanger 病

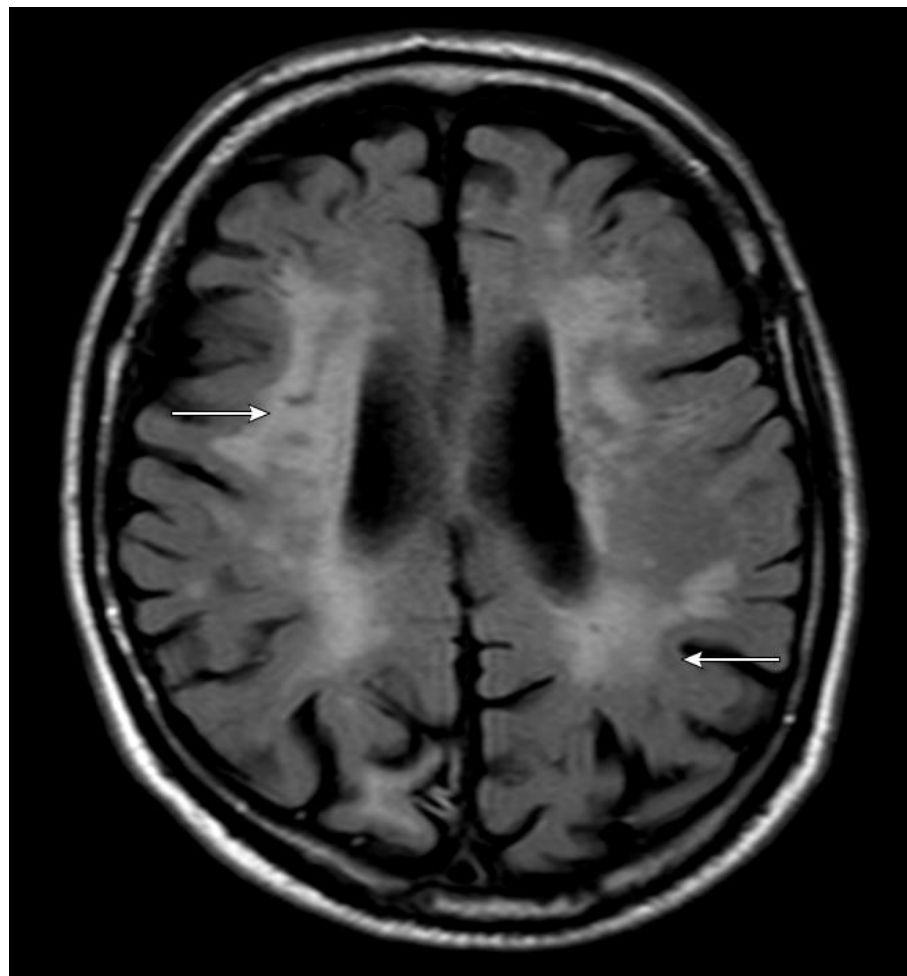


小血管病性認知症

MRI画像(小血管病性1)



健常例

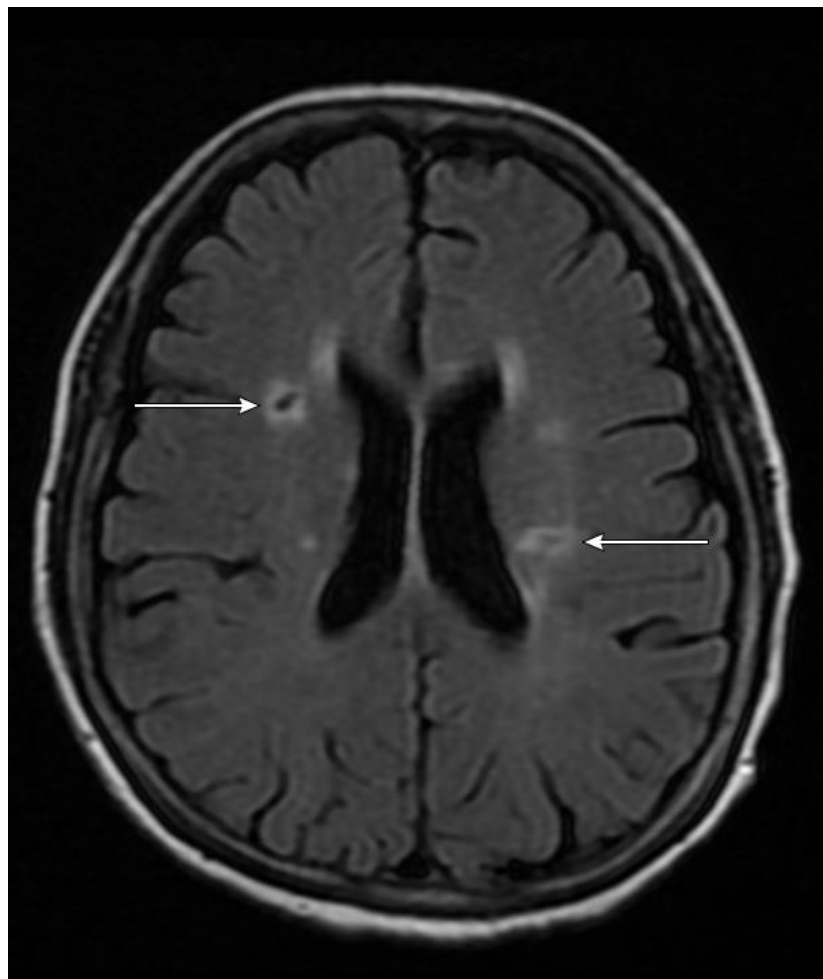


白質の虚血変化

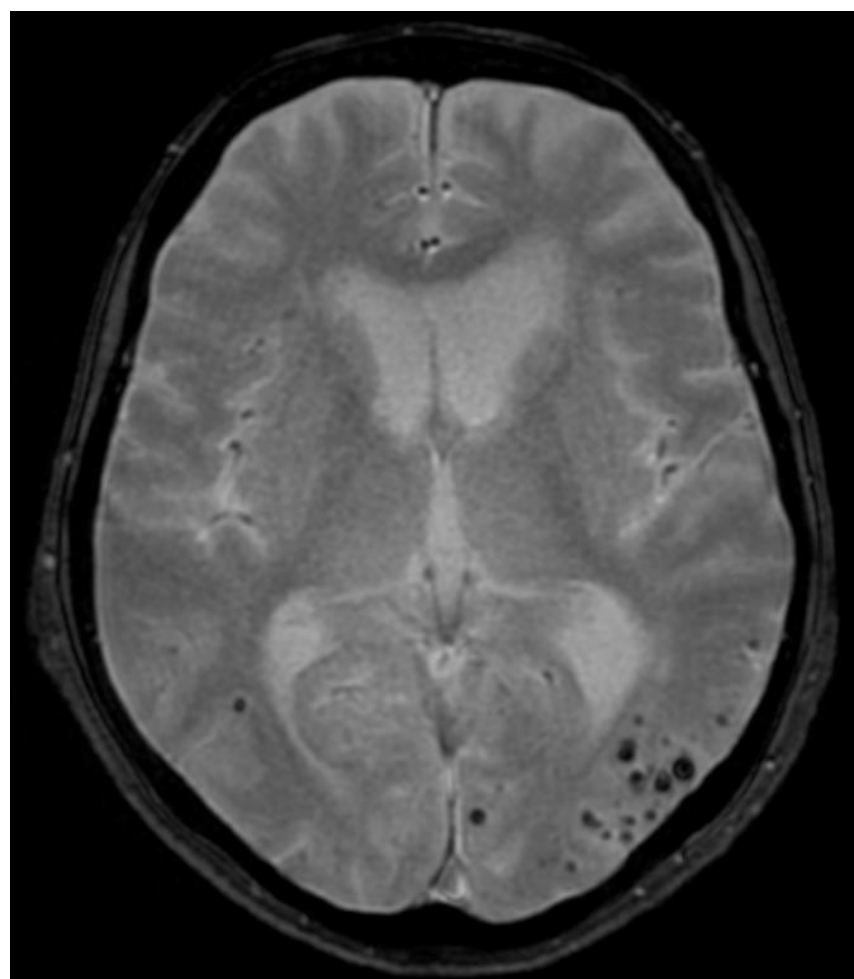
FLAIR画像



MRI画像(小血管病性2)



ラクナ梗塞



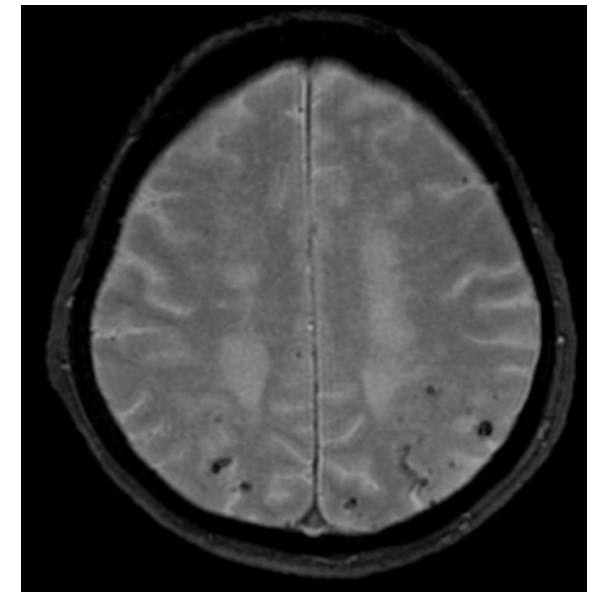
左後頭葉優位の微小出血

左:FLAIR画像
右:T2*画像

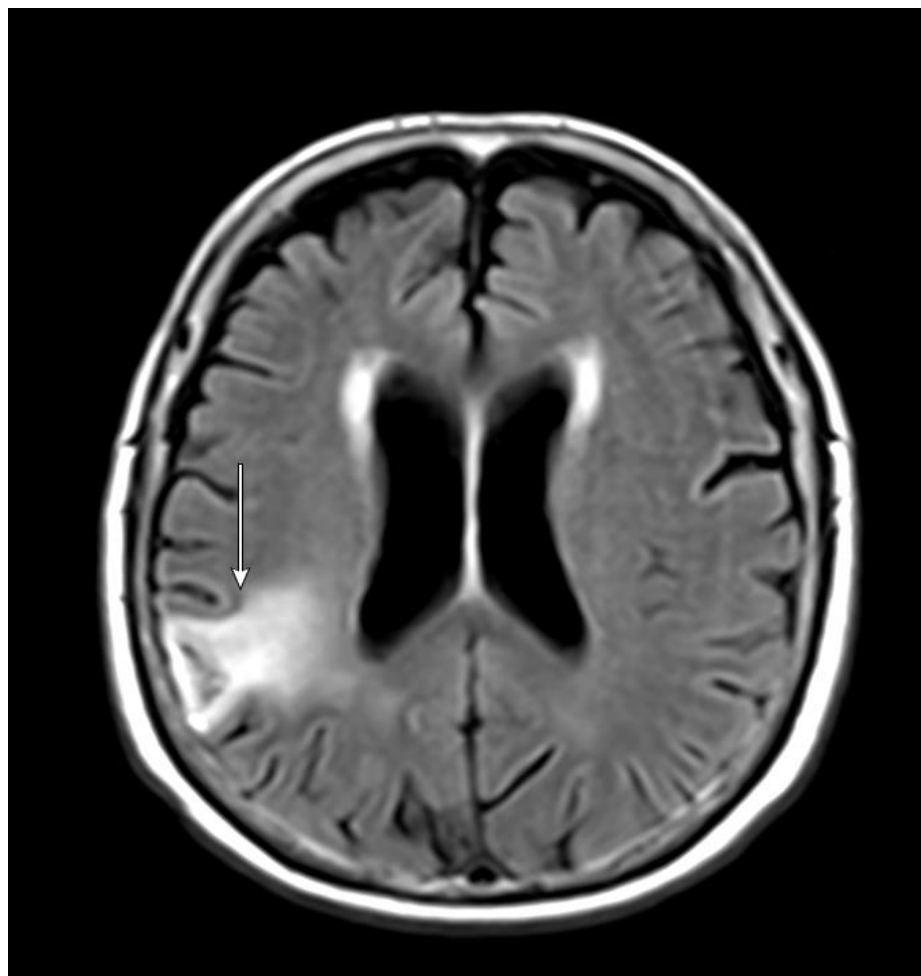


アミロイド血管症

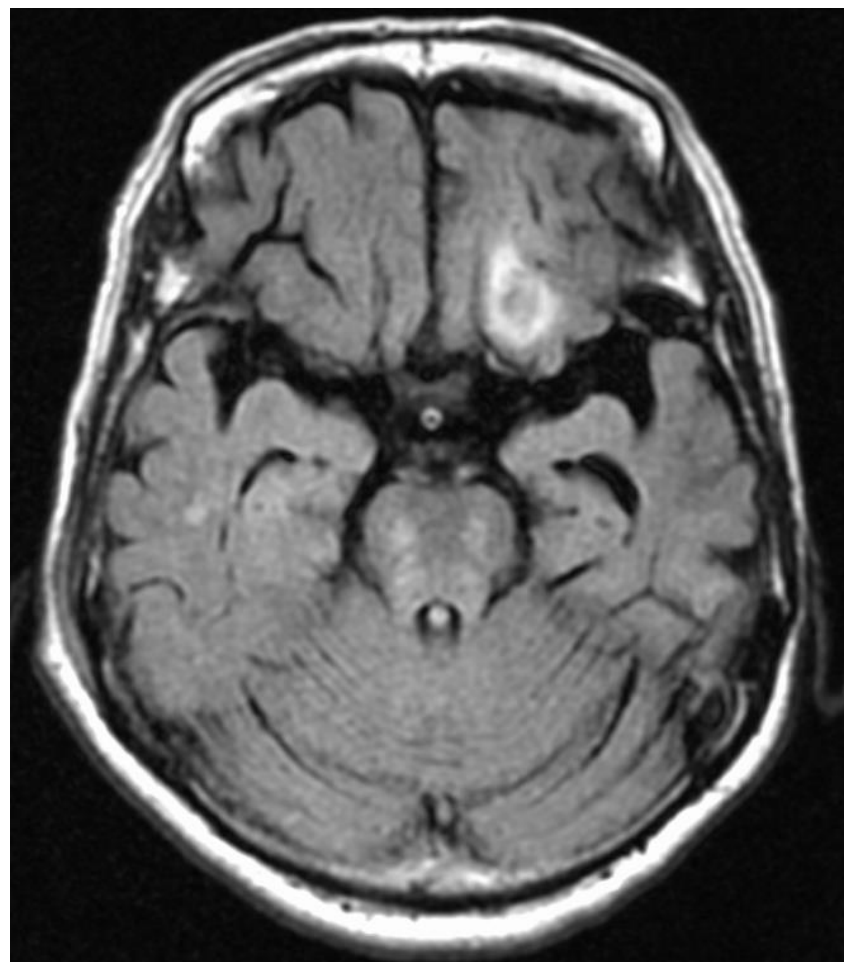
- アルツハイマー病の原因物質と言われているアミロイド β が、脳の細い血管に沈着して出血や梗塞を起こす病気です。
- 加齢と共に増加し、アルツハイマー病の80%以上で合併する¹⁾と言われています。
- 脳の一部に限局することが多く、後頭葉や側頭葉に多い²⁾と言われています。



MRI画像（脳梗塞、脳出血）



右頭頂葉の脳梗塞



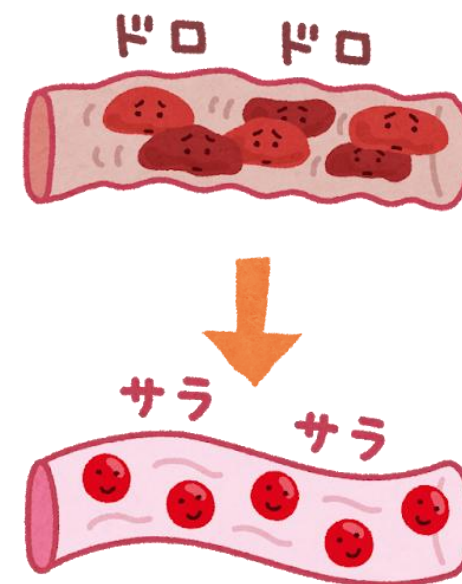
左前頭葉の脳出血

FLAIR画像



治療法（予防法）

- 危険因子をできるだけ減らして、脳血管障害の進行を抑えることが何よりも重要です。
 - 血圧管理
 - 血糖管理
 - コレステロールの管理
- 抗血栓薬の内服
 - 心房細動のある人や脳梗塞後の人に
 - アミロイド血管症には使えません
- 抗認知症薬
 - コリンエステラーゼ阻害薬：ドネペジル、ガランタミン、リバスチグミン
 - NMDA受容体の拮抗薬：メマンチン



本日のまとめ

- 血管性認知症は、2番目に多いタイプの認知症です。
- 記憶障害よりも、思考スピードの低下や注意の障害などが目立つことが多いです。歩行障害などの神経症状を伴うことがあります。
- 生活習慣病や心疾患、喫煙などが、危険因子となります。
- 虚血変化やラクナ梗塞、アミロイド血管症など、小血管病変が原因となるものが過半数です。
- 血圧や血糖の管理をして、危険因子を少しでも減らすことがもっとも大切な治療法（予防法）です。

